

[illegible]

木浦領事管内において最も重要な事業を舉ぐれば先づ農漁と云はざるを得ざるも然るに遺利多くして且つ邦人の經營に便なるは鹽業なりとす

鹽業に取てゐた殆んど専門家の調査したるものや、其大要を述べれば左に如し。韓國に於て消費する鹽は大部分國內に産し、一部分外國輸入品に依り、輸入外國鹽は日本産の精製國產の兩種なり。我國統計に依り過去二ヶ年間に於ける輸入高を示せば左の如し。

食糧輸入 二十四年 三拾五年
 穀 價 二二六三九 二一八八
 格 一三五五五四 七八三三
 穀國產は山東省地方より支那ヤンキにて
 常輸入するものなり茲は素より前記の統計に
 合はず從て該輸入高は素として日本產なる
 なきも或營業者を見る所に依れば日本品輸
 入高より大なるべしと云ふ然れども要する
 に韓國内に消費する食糧の大部分は韓國内
 の產出に係り而して其產出地の主なるは本
 從前道なる事は明白なりとす
 前記の營業者は韓國國產の消費年額を百五十
 万石と推定し内清國國產十三萬五千石本邦

八万七千八百石轉國製產額を百二拾七萬七千二百石とし韓國各道の產額比例を各縣別に算出、京畿道一、慶尚南道二、忠清南道三〇、京畿道一〇、黃海道六、平安道六、時釐一と推定せり元來韓國は雨量少なるを以て製麥業の發達には便利なるが、全羅南道は特に氣候溫暖にして海產著しく屈曲し、その子難國大にして而かも過大に失せず、又各種の事情所爲の發達し、通し將本國田を賣るすべからざる故、乃ち數方町に達するを見ゆ、從て韓國鹽田の地價の如く中等水田の時價即ち一町步二百圓に上るゝとは至て稀なるべし、韓國諸縣原價相合長山中嶺二部は皆て本國諸縣の舊下島嶺田を襲繼し其の意見と發見とを以て、韓國の地價の

左に掲げ當時産業の一斑を窺ふる材料
供す
韓國鹽田は其製造の方法より有鹽田無
鹽田の二種に區別し探採の方面よりする
處を身身式身身式の二種に大別するなど
得べしにして有鹽田は潮干の鹽池を以て

[illegible]

南海岸に無遠慮に伐採せしむるは、國情地勢
 所て多之を見る所下島國田は前者一風し
 の有様にして多風なりと云ふ故に是れ是れ
 の下江に在りて海邊を侵蝕する事式に屬す。其
 の如し今之を改良の爲め目下所費すれば大約五
 千圓の數點を要するものと認む
 一、我々の機土は約二份の一、砂は七份和一
 するものと
 理由 機土の性質如何は投錨の多少及勞
 金に非常の關係を有するものなり現在使
 用しつゝある機土は堅固な質にして海水
 の浸蝕及無益な作用に過難ならぬは時五
 日乃至十日毎に機土に非ざるは探錨を
 爲す事はすして其期間幾回に要する勞力
 殊勝たるす。若し之は細砂を混和せんと

以上の欠点を補つて無難なる作用を起す
らしめ多量の水分を撒土に結晶析出せし
むるに要ふべし

二、撒土の分量を減じて三分一と爲すべし
理由 現在に於ける撒土の分量を拉する
に一平畝に約四石（厚貳寸）にして内地
片畝間に比較して倍は倍なり。す而し
て雖く多大の差を生ずる原因は内地に在
りては比較的大氣の濕潤にして乾燥力少
なく韓國は之と厚異なるによるべし雖
も其差餘り大に失するが如し若し如上
の改良をなすべし然則然る撒土の運搬が
容易ならしめ努力を減ずるの利益も亦尠
からず

●露國大亂乃企圖　露國の改革派
が暗殺の標的として皇室の有力者及び頭目
なる守舊派を擧目しつつあるは怪しむに足
らねども、**シムノフ**と共にウラハナンの
暗さるゝ可からざるを機言するに至れるは
何と比喩の大民の味方なる彼とす。是國の
目的物に擬へたるは「**キチカ奇**」なる如
きものは是れ最も強硬派と稱せざらん、彼を解
さものとせば皇帝として困難の職務任すべう
と股斷なきにあらずんかんとする感歎　出てな
るものなりと魯氏大總統の計畫は既に成れ
り、解水の御廟く近づきて地方官吏の通行自由
云々なるに至らば必しも其現實を見るべしと

●獨逸皇帝に勸告す
獨逸皇帝は皇國皇帝に書を遣ふに平和回復すべしと勸告し且つ友誼的勢力をばを言ひハツツ兵は敵に勝つべしと警告に警告したるに獨逸は停戦止を斥けたり而して獨逸は威威利告告す

のべ正貨を五千萬圓に限定するも、當ヶ年の流出額を五千萬圓に止むべく、既に計算して三億圓とするも、尙尙俄國より差引上登國貨の全額と示せるなり、而して吾余額登俄國は場合にによりては現給して我貨費に費用するも可なり、或は明年に繰越して正貨の繰費も供するも可なり、何れに於ても今回の如き巨額の外債成立は我戰時財政に一大効果を與へたる大幸なりと見へり

●哈爾濱要報云、爲らん、敵が廣く
は花江畔に陣地を敷く、其防線は當然獨逸の
陸境となすべし、敵軍に於て此狀勢を察し、馳
て遠處の朝鮮に其陣地を統制適合するの
處及び通過の路線に直に我軍主力の兵力を
集中し、明らに其の新となり我軍主力の兵團
は廣汎なる範圍の面に縱横自在の行動を取
るべく、哈爾濱は赤旗の狀勢の下に我軍の
掌握に歸着するを、同時に防衛線前に於ける
敵の總兵力も亦た後方退却の地域に悉く工
其存立を失ふべし、蓋し是れ早く拉林河畔に
進いて、統軍の防衛陣地を張るの利とする所

●戰局如何 古今未曾有の我軍大迫擊戰を以て空前の大成果を収りたる我軍の追や直
行主力の整頓休養を圖りて昌圖以降のや直
領總隊と整頓し優待し時機を待ちて猛烈北
進の程に上らんとしつゝあると同時一士
には其先遣部隊既に興京、昌圖の二方面
を直進しに到る無數の後衛部隊を驅逐し是
をかつ漸次其陣地を進めつゝあり而して敢
て其先遣兵を吉林、長春一帶の防禦陣地に
糾合すと共に其以南到る處に後衛部隊
停めて我軍の北進を阻止し以て復我主力
間隔を設るや直遼陽に保たんとすやに於て

もつた。結果俄敵部隊の兵力頗る微弱にし、僅かに我軍の北進に對する監視戰、用をすに過ぎず斯の如き微弱なら敵兵を驅逐し直に其主方の防禦陣地に迫るは必ずし難しとせる所に非ざらむ各所より散亂せらるるの後衛部隊を一軍に驅逐せんとするどき我軍も亦其兵力を小分するの結果を來た時に危險を招くゝとせしとせず雖に敵は敗後と雖も角は二萬五萬の大兵を有すつ浦團方面の敵兵も亦相應の勢力を有すを以て此際敵軍の突圍ハたに戰車の最もひ所にしつて慎重竊心以て一步一步堅實なる進を續行し海を迫りて次第に敵の主力にふんとしつゝあるもの實に目下の現狀な

●戦時財政の好転 外債金と盤関
いふまでもなく我々貨物填の資に供せら
れものなるが開戦以來の義勇に據するに
時に待へず正貨の流出は一ヶ年一億圓
外に達すすに幣貨貿易の關係より流出

「第一、日露戦争 對する米國各新聞の批評若くは勸諭は競争し得て頗る上々たるものである。其五六を上に掲げて見よ」と云ふ。

タイムズ曰く、「ロバートソンは壹歩も退かぬと誓つた。五條公使は壹歩々々と進み方々なく、壹體に高飛びする方の男」

戰地商人の取締

戰地に於ける吾軍政が内地商人の戰地に渡り營業を許す事と一ツの足手纏ひに思ひ之を防禦するは餘念汲々たるの傾向あり従つて我が軍隊に供給する所の物資は本國より輸入せる糧食被服以外の物品は皆之を清國商人の手より仰せざるを得ざるは理の當然にして爲めに我が國民が殆ど血涙を流して擧げた軍費の一部分は清國商人の腹を肥やす所となつて居るのである、鐵式拾一議會に於て豫算委員の一人は政府は何故に内地商人の交戰地に赴くを禁止するや、質問をなせしに陸軍大臣は直に其席に於て疑問に就ては政府の目下考慮中にして速かに國民を満足せしむるであらんと云ふ種々な意味の答辭を述べた點である、果して然らば

ば政府は今將^レさ研究中のやうであるが、其時期は何時到來するか我軍は殆んど邊境遠く勝^ルや奉天附^クの大軍に於ては歴史上無^レ敵の大勝を博し、遼國瀋州軍の主力を撃破し、遼口で鐵嶺の勢に厚原を陥入れ、昌圖を破り、錦尼^ニ破竹の略を以て北進しつゝある其戰績は、廣義數拾里に亘^ルたると同時に我が内地に於ては續々瀋州へ入^リ來^ルめ彼我青無^レ相通を其交情を溫めぬ。其の作戰を助け其行動を活ならしめねばならぬ往^テに名を顯さず、其に托して今尙ほ躊躇しつゝある其苦悶解^ル難き大敵である是れ畢竟吾が邦人の一掃して否か人間の弱點として動もすれば戰

漢州の名を藉りて内地商人が種々な悪影響を國に加へたり或は無賴の徒が種々其の惡事を圖くなどありて殆ん悉く其の害を半ばする所なり政府は之を斷行するの勇氣がないのかも知れない、現に廿七六年の清戰役に於て數度の軍火暴発したる影として一時内地の犯罪者が増したることを以て政府の猶豫躊躇する亦た察み得るに余あるが吾輩は宜しし戰時戰地に渡行する内地人民を取締るには陸軍刑法を以て適用するを以て最も宜きとせ得べしと考へる、嘗て戊辰の役漢西郷は越後縣を官邸振はざるを聞き直に其黨内に砲火を振振する爲めに一衆士の民家に入り一を盗みたるを捕るに就るを以てし之を

は
る
戦
内
す

かに照源して其國會に對し「爾來者其其變
衰したりと云ふ我軍政當局者なるもの宜
く之に鑑みたる所あり假時戰地に限り天
の大權を異て陸軍預備として軍人派風以
に之を適用し以て新統治安寧の基礎を
固にするの機斷亦かる可からず區々たる

其の宗廟神澤愛知縣四郡郡部に在
 正祭二十人一世一族百四拾三人と云
 年祭丹波日置愛新第第九六四号奉照

文苑

海關漁長

甘肅省定以絲
 桃林春霞夕陽
 太

本國艦が来る、何うか春にはなほ好い。さうして、
 本國艦の佳人今年ばかりは冬の長きを祈つて
 冬をながるゝ。ムアツコイトブアエ、ブレ
 フス曰く、今や露國王氏の幸福幸福なのは
 自らに在る。俘虜ばかりだ、見玉へ贈中には
 亡國の悲歌が清うて居るではないか。ウレ
 部の職官も數ふ片付いたと言つた、如何に
 も感服も効のない方に片付いたやうだ。ム
 ルモア、アマリカンシヤ、露國では皆
 て意圖の無いのを悲んだ、今や皇儲は出来
 てゐる。さうして、
 ジムス、ブレックマン曰く、乃本將軍が
 施後米國に来て、降参すれば、今一戦爭す
 支拂の重責は成度償けられる、今や將軍の
 名は神の如くである。

● 藤澤了介の遺風 在 香港 南山生校
生 幼少より南山皇胤を研究するの宿願あり
今日まで編纂せる者、楠木世紀七卷、楠
郎考一冊楠木正綱一巻ありしが惜ひしに
空谷山公小學侯失火の弊此等南朝に關する
史料は概ね尙有らば歟せしが、今心に存
しに記し敢て風に發致せんと欲する所の
尙は未だ存在せる者頗る衆と藤澤了介の
如き偉人稀なり其たり

了介の雄辯驍穎なるは世既に明かにして
る。復た世公と換へたるべし。唯其南帝の流
たるは世戚は未だ知らざるも者あらん因て
實の皚白を綴するは之れが爲めのみ踴り割

をせよと囑ふなり
一介は錢銀鬻賣の第三子一品兵部都議良
和山の離れしに於て親王元弘中和州山郷
日王子御誕生ありしも北朝の推斷を蒙へ信
山の子孫等に通れて雲を佛誕化し名と号
改め親王弟と俱に京深川宮長慶殿院寛
法皇を尊け奉りて衣冠を割られたてぬ所
服はす爲りに薄絹勢に出で美儀に移り
之に慢麗の鼓腰獅に懸けられし是利勢の
のみに守護士被は追捕せられし嘉喜某王は厭
に奔命を絶つる事及び日額正は願を陳て
現に本管川内田に入らせられたまひも益給
妙法院宮登澄法親王(宗良親王)と尊られ
乃次野の屋に暫はし居を圖るさせ玉ふし

王は世に實に「介」繼伯の祖守人となす故
 高澤子繼伯繼伯に作るは誤なりは薩
 親王の玉子幼名親若九日親玉の十世の貴
 人なり

めたるのは太宰府實業に内情を暴露する
のたし方御前御下へおかれたるごき
ます何れは兎もあれ此處に於て賄の惡事母
と云ふかに太平がうちに居た事ゆゑと御
話しを由ですと云ひますと太平は女中を呼
んで聞か申しつゆさすと尋ねられ申す由海
の診秋田野の野梨 太「サッ」一歳今日は新
面の御姿を頂戴いたしうございぬす先づ

平何料殺無罪。恠多於焚尾時。
 ●櫻 鱈 同 人
 源源春木。網長。誰言南面海中王。
 亦帶桃花色。曉市東風細動香。
 ●春窓雜詠 炭村 峯子
 偶とやればナト 飛びねろす白鷗の羽風にふ
 れて神の花散る
 別々とも相見る 夜半が多からむいや清かれ
 女三人の夢は
 染の根切に土壁を追ふと煙踏みて人の世知
 らに土籠うらやむ
 時に飯に挿しは 柿はよく散りてさかみの梅
 の日輪經るかな
 鳥山のむらさき裾渡日は落ちて海を眠れる
 漕ぐ舟なに
 ●うらゐか (紅黄白紫園)

うら、かや東風孕みたる十反帆 白
うら、かや鐵壁障の鉄切羽 沐
うら、かや煙煤に陽炎々晒し布 芳
うら、かや天水桶に帆の影 螢
うら、かや覗いて届けし海の中 工
うら、かや人に馴れたる鶯の鳥 蒼
うら、かや傘影表香市の春 薫

講談

討仇武勇の譽

(廿一回) 元井竹村講演
本社 員速記

重太郎は座敷へ歸るや太平の前へ兩手を

[illegible]

方は對し何の義世話をしぬじた是へは
いません貴下様か私くしに何ほべき願か
いとおしやいますか私くしが貴下に賣
何けべき願かないのでございます御尋御
御尋と曰ひぬ事がら候様にも是女屋へ

100

と語を原て重太郎にせし、重太郎より金を取つて、
浪さへつて、つゝ金も尽き、思ひついた太平は小
根遣が、今度の大變をくわしく重太郎に告げ、
即ち物陰り、またかゝる重太郎は一度は怒るも
一度は嘆き、其の惡考に身がふなわして、驚くや
く話したに身が入り、まして十分は聞かして、
其後には限りました、何うもつゝ重太郎の病氣
が益々重なるのみ、前に金持の婆子も、見へん
重太郎も、心配太平も、心配重太郎の主人金兵衛
衛も、一方ならず心配して死生命、あゝ氣の
毒にもつぎ女は去つて再たひ歸らぬと思ひ、
泉の旅へ赴むに、またたかたの如く、葬式をい
て、なみ此の體を上野の上野の政景の元へ届け、
ですと、第七日、政景の使者、いだしき、
して田中作兵衛、彫り、絶つゝ女は悔みを、
金子一百兩を夫へ取、いだし、作之は

岩見氏主人より香料として些々ながら佛へ備へます重太郎大に驚く。重太郎は此の御香料には折角の思ひ召でござりますが頂戴仕まつる大箱に相成りませぬと云うか御神婚りを願ひやうんじます。作「これゆれば御父ともでござるが主上様はすにこそ」女は父の仇を討んと兄と共に國表を立出なし艱難辛苦及んだるは又其の孝女なりさうなるが浮都の宮の巴へ身を沈め然して重太郎と共に出奔いたれば罪人である定めし幾下にして此處を脱ぎつらんである。一百兩香料を以て之の宮の巴里なる身の代金を渡與へし

西の名を導くゝと、近きなりとのみで之の
 います。速やかに御受納然らば、かゝり心得
 する。重何れから留まて御行届さるゝはさ
 御慈悲よか、御取計に、重太郎は心根に、
 し表じけなふとぞいします。然らば手前受納
 まつります。作説ては最早、七日御身は
 しに、日を怠へず、身分なり、大川成爲
 廣瀬と組ひ玉ふ大切なる處、御身分早
 御出立せられ、さうしからう。政景の
 をとぞいします。又、奥州路は、家方にて急
 へ、渡斯く三人を組御執ますこと、決決して
 御所にて御心配なうし、申さうと州より江
 屋へ、政景、今江島渡御舟を得たといひます。
 西つら、政景、今江島渡御舟を得たといひます。

と何ぞ御聞道するにせんか
をいたした早く歸りいで何日通
を仕まつるでなむまきう田中作樂殿に
本物れまして上野之介政家の座へ移たり
對面の歌舞が終りましは。

雜報

アトリ、メイルは記して曰く壹千九百

●大邸だより 落武者

帝國皇帝より派遣せられたる親

御座なく候へ共彼等が内地よりの新來者

特派員 錄月

一 屏風を引て持る屏風の女の如く仕度

日間の追撃と非戦計画を

の代物に振へば金でもありそふな客と見

木實にも及びされども此附

候はサテ置き、備田邊へ置板に筋張りしも、

我軍は

として後薄を離るるに臨み得意の嬌舌を算

とて大國と本石に之れなく候へば

別れの涙
蜷 郎 生

かつたが、今宵は一入に思ひ出されて
 日着いた寫眞と手紙を取り出して涙に
 濡つたが、彼はすこぶ笑を噓して、

今
 だした
 が、異
 戦、始
 まるど
 か云ふ
 事、お
 類は新
 鮮なる
 品に似
 たる、其
 色氣と
 光澤さ
 かも、
 風評に
 なつて
 夫れに
 彼、地
 の醫藥
 へ眼珠
 も盛り
 上つて
 達明だ
 る。▲
 も皮皮
 固着し
 て、密
 に脱着
 するエ
 ヲ、赤
 くして
 惡いも
 保護せ
 んやう
 でした
 から、
 歸りま
 した。

大釜
應可
彰武
山田信勝氏

-237-

[illegible]



旅舎

伊豫大洲
金山港馬濱町支店
小野 茂

新荷到務擴張

コーラルン、シャツ類 和歌山特産モンパシヤ	西 ならめい通町	十字屋本店
美濃焼、尾州焼、 伊萬里焼、陶器類、	西 ならめい通町	十字屋第一號店
名古屋小間物、出雲焼、 陶器、漆器、一閑張、	山形 附屬賣品館	十字屋第二號店
襖立具類一切	西 ならめい通町	十字屋第三號店

右新荷到着候ニ付卸小賣共大割引販賣

齒科専門

幸町南濱通上町廣濟町
和田野醫院ヨリ五軒目

共生醫院假治療所

京城泥鰌一號地ニ滞在シテ契約起業民衆
熟等汎ク法律事務ヲ取扱

東京辨護士會 辨護士皆川廣濟

東大慈本藥店



香寵葡萄

草梁大慈支店
東谷出張店
春野店
土井

販賣品目

鐵網並建築用
諸金物類一切
亞鉛引平浪板
口一類各種
韓人向諸金物

元山海第三號
角野 元田支店
釜山 大江 支店
角野商店
大邱 南門外
角野大邸皮店